

レジデントからのQ&A

早期胃癌における陥凹面の無構造化とはなんですか（どのような意味がありますか）？

[回答]

金坂 卓
Takashi KANESAKA

副部長
上堂文也
Noriya UEDO

大阪国際がんセンター消化管内科

Answer

早期胃癌における無構造化な陥凹面は、以前よりX線や通常内視鏡で未分化型癌に高頻度にみられる所見とされてきました(図1)¹⁾。Narrow-band imaging (NBI) 拡大内視鏡では、腫瘍の50%以上の領域に無構造化 (absent microsurface pattern, 図2) 所見がある早期胃癌は未分化型である可能性が高いと報告されています²⁾。ただし、初期の未分化癌は必ずしもabsent microsurface patternを呈さず³⁾、一方で分化型癌でも後述するような場合はabsent microsurface patternを呈することがあります⁴⁾。

1. 通常内視鏡

通常内視鏡による陥凹型早期胃癌の診断では、陥凹底、色調、辺縁、ひだの所見を評価することが重要です(表1)¹⁾。胃癌の組織型が分化型か未分化型かを診断するためには、これらのうち陥凹底や色調の評価が特に重要です。分化型癌は陥凹底が主に顆粒状あるいは粗大結節状を呈し、発赤調であることが多く、一方で未分化型癌は無構造化な陥凹底にインゼルを認め、褪色を基調とした色調を呈することが多いと報告されています。また、内視鏡治療症例を

対象とした早期胃癌の深達度診断に関して、無構造化は粘膜下層浸潤を示唆する指標の一つであると報告されています⁵⁾。

2. NBI拡大内視鏡

NBI 拡大内視鏡による早期胃癌の診断では、胃粘膜表層の微小血管構築像と表面微細構造をそれぞれ独立して評価することが推奨されています⁶⁾。NBI 拡大内視鏡における表面微細構造には、腺窩辺縁上皮 marginal crypt epithelium と腺開口部 crypt opening に加えて、light blue crest (LBC)⁷⁾ や白色不透明物質 (white opaque substance, WOS) といった所見が含まれます。前二者が視認されることは、そこに腺管構造が存在することを意味します。LBCは組織学的には刷子縁に、またWOSは組織学的には上皮内または上皮直下に吸収された脂肪滴に対応し⁸⁾、吸収上皮の存在を意味します。両者とも胃の腸上皮化生や腸型形質の腫瘍に特異的な所見であると考えられています⁹⁾。つまり、NBI 拡大内視鏡において上述した表面微細構造が視認される場合は、組織学的には腺管構造が存在することを意味します。しかし、NBI 拡大観察で表面微細構造が視認されなくて